# This Page Is Inserted by IFW Operations and is not a part of the Official Record

### **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

## IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning documents will not correct images, please do not report the images to the Image Problem Mailbox.

#### Document 2

#### JP UM Laid-open Gazette No.63-193215

Laid-open Date: December 13, 1988

Application No.62-81254

Filing Date: May 29, 1987

Inventor: Ando Nobuyoshi

Applicant: Mitsubishi Electric Corporation

Title of the Invention: Optical head

part 8

⑱ 日本国特許庁(JP)

①契用新案出廢公開

@ 公開実用新案公報(U) 昭63-193215

@int\_Cl\_4

識別記号

广内整理番号

❷公開 昭和63年(1988)12月13日

G 11 B 7/08 Z-7247-5D 7247-5D

審査請求 未請求 (全 頁)

❷考案の名称.

光学式ヘッド

昭62-81254 到実

魯田 昭62(1987)5月29日

安

俉 葢 兵庫県尼崎市塚口本町8丁目1番1号 三菱電機株式会社

伊丹製作所内

②出 魔 人 三菱電機株式会社 東京都千代田区丸の内2丁目2番3号

20代 理 人 弁理士 自我 道瀬

外3名

明	<b>****</b>	趣

考案の名称
光学式ヘッド

#### 2 実用新案登録請求の顧問

#### 3. 考案の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

この考案は、配録媒体からの反射光を受光する 光検出器を備え、光学的に情報を記録,再生する 光学式記録再生装置の光学式ヘッドに関するもの

190

11

12

13

14

15

16

17

20

(1)

である。

〔従来の技術〕

第4図は、例えば特開昭 6 1 - 2 3 0 6 3 2 号 公報に示された従来の光学式ヘッドであり、図において、光学部品を収納する筐体(3)には光検出器(7)の取付けられたペース(8)がネジ(16a),(16b)によつて固定されている。レンズ(14)は光酸(1)からの光を対物レンズ(5)へ導くもので、対物レンズ(5)により媒体(6)の所定の位置に光源(1)からの光を集光させる。媒体(6)からの反射光はブリズム(13)により光検出器(7)へ導かれる。レンズ(12)は反射光を光検出器(7)上で無点を結ばせるためのものである。(17)は反射光の一部を遮る遮光板である。

以上の構成における光検出器(7)の固定について 説明する。筐体(3)にはネジ穴(18a),(18b)が形成されている。光検出器(7)が取付けられたベース (8)には穴(19a),(19b)があけられている。ベース(8)を筐体(3)に密着させてネジ(16a),(16b) をそれぞれ穴(19a),(19b)に通してネジ穴

197

Įij.



(18a),(18b)に締め込み、筐体(3)とベース(8) の摩擦力により光検出器(7)が振動,衝撃等により 動かないように固定する。

[ 考案が解決しようとする問題点]

従来の光学式ヘッドは以上のように構成されているので、ネジ締めにより光検出器のベースに回転トルクをあたえるととになり、ネジとベースの接触摩擦力が大きいと光検出器が動かる。光検出器が仮動が振動、衝撃で動かないように固定するためにネジ締めするが、その際に光検出器が動くため光検出器の位置調整をやり直さなければならないという問題点があつた。

この考案は上記のような問題点を解消するため になされたもので、光検出器の位置調整が終った 後、光検出器が動かないように固定できる光学式 ヘッドを得ることを目的とする。

[問題点を解決するために手段]

この考案に係る光学式ヘッドは、光学部品を収 納する傑体および光検出器の取り付いたペースの いずれか一方に磁石を、他方には磁力に対して吸

198

11

15

16

795	C	70	<b>~</b>	121	47	<b>3</b> .	142	76	7	· ¥C	<b>.</b>	. 9	4X	ソ	ניר	1)	(	14	4	٠			1
		ַ	.PE		用	3				٠	•												2
	۲	Ø	考	案	K	⋨⋧	Ų	て	口	•	韺	石	Ø	截	カ	K	ľ	ŋ	光	検	出		3.
器	が	固	定	考	ħ	る	٠	•															4
		C	爽	施	<b>6</b> 7]	כ																	S
	第	1	図	~	绑	3	X	łΙ	ح	Ø	考	案	Ø		実	施	例	<b>*</b>	示	し	•		ថ
N.	K	お	ţ,	て	•	光	源	(1)	は	•	光	学	部	品	を	収	納	す	る	筺	体		7
(3)	Ø	枝	部	(2)	K	取	付	け	5	れ	τ	٦'n	る	۰	筐	体	(3)	Ø	上	ŒŨ	K		8
は	T	1	チ	x	_	9	(4)	Þ;	取	付	庁	5	れ	て	ζ,	ろ	•	ァ	1	チ	<b>J</b> .		9
_	夕	(4)	Ø	内	部	K	II	対	物	ما	ン	X	(5)	ď.	収	紨	Ž	れ	て	≱ट	ゥ	•	101
光	族	(1)	<i>ነ</i> ን	5	Ø	光	を	媒	体	(6)	Ø	所	定	Ø	仗		K	果	光	**	弃		1)
る	•							,															12
5	媒	体	(6)	か	5	反	射	L	た	光	查	集	光	25	重	て	餀		情	報	<b>ት</b>		13
知	る	光	検	出	<b>3</b>	(7)	を	取	ゥ	付	ゖ	る	絶	緑	物	<b>\$</b>	で	で	答	た	~		14
-	ス	(8)	K	は		莊	石	K	吸	引	さ	'n	る	鉄	板	等	で	で	含	た	磁		15
性	部	材	(9)	χ) <sup>ζ</sup>	接	溍	ᅔ	n	て	Ļ,	る	•	筐	体	(3)	K	红	•	磁	石			16
€.	1 (	o )	Ŋζ	接	溍	等	K	ľ	ŋ	貢	定	さ	れ	て	ţ,	る	٥	艏	件	(1	1)		17
Ė	•	媒	体	(6)	<b>ታ</b> ኑ	ら	Ø	反	射	光	を	光	検	出	器	(7)	^	魚	Æ.	を	あ	•	18
b	也	る	た	<b>x</b> >	Ø	レ	ン	×	(	1 2	?)	<u>*</u>	权	納	し	て	Ļ、	る	٠	ブ	Ŋ		19
×	A	(	1 3	3 )	仕	•	族	体	(6)	φ>	5	Ø	反	射	光	<b></b>	光	検	出		(7)		20

へ導く。レンズ (14)は、光源(I)からの光を媒体 (6)へ集光させる。

以上の構成により、光原(1)から出た光はプリズ ム(13)を通りレンズ(14)により平行光にされ てアクチエータ(4)の内部の対物レンズ(5)に到達し、 対物レンズ(5)により媒体(6)上に集光スポットとし て 焦 点 を 結 ら 。 媄 体 (6) で 焦 点 を 結 ん だ 光 は 反 射 し て対物レンス(5)により平行光にされてレンス (14) に戻る。レンス(14)により反射光は収束され、 ブリズム(13)により光検出器(7)の方へ導かれる。 光 検 出 器 (7) へ 導 か れ た 光 が う ま く 光 検 出 器 (7) 上 で 焦点を結ぶようにレンズ(12)の位盤を調整する。 レンズ(12)の位置を調整する際、光検出器(7)を 取付けたべース(8)には鉄板等の磁性部材(9)が取付 けられており、また、磁性部材(9)が度体(3)に接触 する部分には嵌石(1.0)が筺体(3)の内部に接着等 により固定されているので、磁石(10)の磁力に より 磁性 部 材 (9) が 吸 着 され 、 光 検 出 器 (7) は 筐 体 (3) に固定される。レンズ(12)の位置調整が終ると 筐 体 (11)は ネ ジ (15)に よ つ て 筐 体 (3) に 固 定 さ

11

13

14

4

れる。

なお、ベース(8) に磁石、筺体(3) に磁性部材をそれぞれ取付けてもよく、同様の効果が得られる。

また、さらに強力な固定力を必要とする場合は、 磁力による吸着固定後、当該ヘッドの総合再生試 験後に接着剤による固定をすることは自由である。

〔考案の効果〕

以上のように、この考案によれば、光検出器を固定するのに磁石の磁力によつて固定するようにしたので、光検出器が均等に関体に固定され、光検出器を動かすと同時に固定されるため、光検出器の位置調整が終つた後固定する必要がないので、光検出器の位置調整をやり直さなくてよいという効果がある。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図はこの考案の一実施例の要部側断面図、 17 第2図、第3図はそれぞれ第1のⅡ-Ⅱ級および 18 Ⅲ-Ⅲ級に沿う平面での断面図、第4図は従来の 19 光学式ヘッドの概略射視図である。 20

201

15

(1)・・光源、(3)・・医体、(4)・・アクチュエータ、 (5)・・対物レンズ、(6)・・媒体、(7)・・光検出器、 (8)・・ベース、(9)・・磁性部材、(10)・・磁石。 3 なお、各図中、同一符号は同一又は相当部分を 示す。

> 代理人 我 道

12

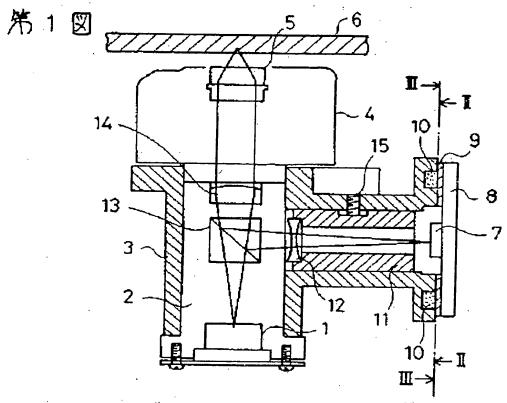
13

15

16

202

(7)



1: 光源

3:筐体

4: 7クチュエータ

5:対物にズ

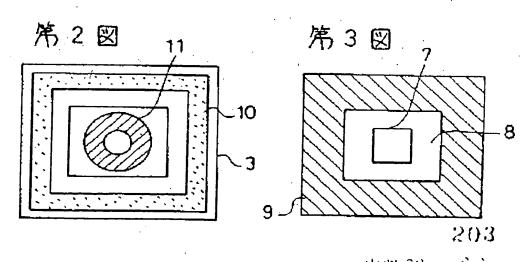
6: 垛 体

7: 龙梗出器

8:ペース

9:磁性部材

10:磁石



代型人

曽 我 道 照

## 席4図

